

# 高校生の技 世界の人に

十六、十八日に志摩市の賢島で開かれた先進七カ国(G7)交通相会合では、伊勢工業高校(伊勢市)の生徒が制作した木箱に日本酒が入れられて、出席した閣僚らに贈られた。大工になるのが夢だという三年の久住琉天さんは「きれいで良い仕上がりになった。緊張感を持って人に渡す物が作れる良い経験になった」と達成感をにじませた。

(外山矩美)



日本酒贈呈用の木箱を作った生徒たち  
ちいずれも伊勢市の伊勢工業高で

## 伊勢工高生 贈呈用木箱を制作



木箱は日本酒の瓶二本が入る大きさで縦三十五センチ、横二十五センチ、高さ一一・五センチ。スライドしてふたを開ける構造で、県産のヒノキを使用。前面には「G7」の文字をレーザー加工し、各国の国旗がプリントされ

## 閣僚らに県内産日本酒入れ

た。中に清水清三郎商店(鈴鹿市)の「作」と、大田酒造(伊賀市)の「半蔵」を入れ、四日市萬古焼の酒器などと贈呈された。

木箱を手がけたのは、同校建築科の課題研究で、もの作りを学ぶ「ものづくり班」の三年生八人と建築研究部の二年生の部員。ものづくり班が設計と組み立てを行い、建築研究部がレーザー加工と国旗のプリントを担当した。箱には、くぎを使わず、木材で固定する伝統技法を使用。地元企業にも機械の使用など協力を仰いだ。

ものづくり班は四月下旬から設計を始めた。五月ごろに予定と比べて日本酒の瓶の大きさが変わり、箱に入らないというトラブルも発生。設計を変更して対応し、授業や放課後に木材同士がずれないように組み立てやすりがけなどを丁寧に行って完成させた。

三年の三浦雛さんは「誰かのために、もの作りをしたのが初めて。頑張ったものが世界の人に広がって良かった」と振り返った。

4月、木箱を設計する生徒らと同校提供

